



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-Mail: you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月~3月)

個人/3,000円以上

法人/10,000円以上

第45回通常理事会開催

次年度事業概要を承認 各事業着実に歩みを進めて

友愛ユニオン企画の事業を実施・次代への継承を見据えて

ミャンマー農業支援事業・堆肥づくりリーフレット完成

事業予算書のフォームを変更、前年度分、実績も併せて表記の形式に

第45回通常理事会が開催され、次年度(2026年度)に向けての新たな事業展開について話し合いが行われた。小論文コンテスト日本国内での開催、ミャンマーの農業支援事業でのリーフレット完成、OEJAB派遣・受入事業の継続、友愛ユニオンの企画する普及・啓発事業など、新たな展開が提案され、熱心な協議が続いた。次回理事会において、今回の協議内容を盛り込み、事業計画・事業予算の承認にあたる旨が確認された。

2026年2月13日(金) 第45回通常理事会が友愛サロンの開催され、次年度事業計画、事業予算の詳細が議論された。事業予算、事業計画とも次回理事会で承認される運びとなった。

理事長挨拶

皆様には、日頃から財団の運営にご協力を賜り、御礼申し上げます。ご承知のように、衆議院が解散され、高市旋風が吹き荒れた中で、自民党が大勝いたしました。理事各位の協力に感謝の言葉を交えて挨拶。鳩山由紀夫理事長



友愛ユニオンの活躍を評価。これからの発展に期待。谷藤悦史理事



各事業の要に、鋭い切り口で迫るご意見。芳賀大輔理事



経理関係のみならず、運営全般に目を配ってくださる。菅野亨監事



小論文コンテスト実施時には意外なスピーチを披露。井田安信理事



静岡県清水市から来てくださって。小林正枝理事



財団友愛の運営について真摯に取り組み、活発な議論が交わされる。後藤大智理事

た。新しい政権が発足し、これからの国会の運営をしっかりと見極めていきたいと思えます。この国の将来を「友愛」の方向に導いていただけるよう、ご参集の皆様にもいろいろご指導をいただきました。ありがとうございます。

1 報告事項

議長からの指名を受け、羽中田事務局長が、庶務・経理関連の報告をした。機関紙「友愛」が5月に600号となることから、読者及び理事・監事にも原

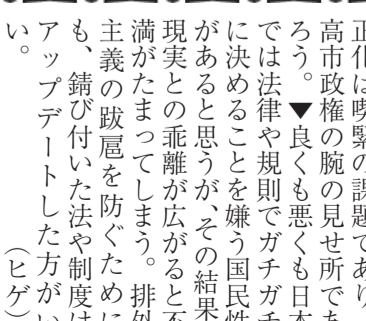
稿を執筆いただきました。依頼があった。各担当理事がそれぞれの事業について報告した。一、OEJABへの派遣

「写真から見る現在の平和」とはの視点から、豊富な資料を基にお話を伺った。OEJABの派遣、受入担当。若人との交流に熱意。西川伸起理事

三、ミャンマー農業指導者育成事業/井田理事 堆肥づくりリーフレット

一、事業計画 国際交流事業、表彰事業については、従来通り実施していく。

鳩山由紀夫理事長・谷藤悦史理事・井田安信理事・芳賀大輔理事・小林正枝理事・後藤大智理事・海方 亨監事



静岡県清水市から来てくださって。小林正枝理事

受入事業については、2026年度12名(エヤップスタッフ含む)の学生を受け入れ、広島など平和に関する勉強を中心に実施される。日程は、8月22日(土)~9月3日(木)を予定している。アテンドを「友愛ユニオンメンバー」に依頼予定との報告があった。

が完成し、配布方法を探っていることが報告された。昨年12月23日に鳩山紀一郎理事のご紹介で、JICAの担当部署の方々と面談し、JICAの荷物として送付することを依頼、年度内に答えを頂くこととした。また、友愛ホームページの問い合わせを活用し、意見、質問を受け付けるよう準備を進めている旨が、加えられた。

2、普及啓発活動の一環として、友愛ユニオン主体で実施する普及啓発活動「友愛平和学習プログラム(仮称)」を新たに実施する。後藤理事が事業の内容について説明を行った。

2、普及啓発活動の一環として、友愛ユニオン主体で実施する普及啓発活動「友愛平和学習プログラム(仮称)」を新たに実施する。後藤理事が事業の内容について説明を行った。

2、普及啓発活動の一環として、友愛ユニオン主体で実施する普及啓発活動「友愛平和学習プログラム(仮称)」を新たに実施する。後藤理事が事業の内容について説明を行った。

友愛時評

還暦の年ゆえか、富山の秘湯でプチ同窓会をやるという話になり、北陸新幹線に初めて乗った。大宮から乗り込んだ時にはほぼ満席で、キャリーケースを収めるのに苦労した。一息ついて客車内を見渡すと、巨大なスーツケースがいくつ荷物棚に載っている。それどころか、2メートルを超えるようなスノーボードが座席3列分の棚を占拠している。女性の車掌さんが誰のものか英語で聞きながら通路を行き来し、全てをどこかに移動させるまで2駅以上かかっていた。▼インバウンド旅行者の巨大で多過ぎる荷物の問題は、東海道新幹線では指摘されて久しいが、相変わらず現場対応に任されている。日本の文化やマナーを多言語で啓発する取り組みも為されているが、真面目に予習してから旅行するタイプは少数派だろう。▼現在では改善されたようだが、外国運転免許から国内免許への切替の実際を知った時には唾然とした。住所はホテルでもよく、学科試験がイラスト十問だけという、日本での免許取得要件との無茶苦茶な格差に警察内部でなぜ誰も異論を唱えなかったのか。これに限らず、相続税などの税制、健康保険、免税制度など日本人の「常識」を前提とした法や社会の制度は数多い。在留外国人が3%を超えた現在、その適正化は喫緊の課題であり、高市政権の腕の見せ所であろう。▼良くも悪くも日本では法律や規則でガチガチに決めることを嫌う国民性があると思うが、その結果、現実との乖離が広がると不満がたまってしまう。排外主義の跋扈を防ぐためにも、錆び付いた法や制度はアップデートした方がいい。(ヒゲ)

「私にとって友愛とは」友愛小論文コンテスト 鳩山会館にて開催 美しい建物に歓声

国際色豊かな在學生と友愛ユニオンメンバーでのテーブルディスカッション
テーマは「日本で感じたカルチャーショック」

2月28日(土) 千代田教育グループの各学校で学ぶ留学生を対象に「友愛小論文コンテスト」が実施された。この日は友愛ユニオンメンバーと留学生との交流・テーブルディスカッションを中心に実施。鳩山会館を見学したいとの要望に添えて「鳩山会館」での開催となった。友愛ユニオンメンバーは、スピーチ、ディスカッション進行、鳩山会館案内と多方面で活躍した。意見交換も活発に行われ、充実した交流の時間がもたれた。友愛ユニオンメンバーの報告を紹介します。



鳩山由紀夫理事長挨拶 (櫻上哲夫理事代読)

千代田国際語学院の皆さん、千代田教育グループのそれぞれの専門分野で学んでいる皆さん、こんにちは。友愛Foundationの鳩山由紀夫です。

今日は皆さんと、友愛のメンバーとの交流会とのこと、若者同士の活発な意見交換がされることを楽しみにしています。

せっかく鳩山会館においでくださったのに、参加できず申し訳ありません。

鳩山会館は、私が幼少の頃を過ごした思い出の場所です。

弟の邦夫と庭でキャッチボールをして絵に穴をあけ

挨拶は苦手ですと言いつつ、素敵な笑顔で、この交流会の意義を話してくださいました。栗田秀子会長



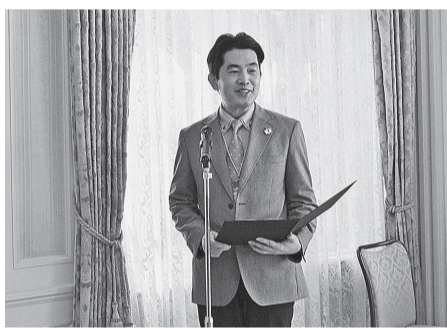
てしまったり、貴重なステンドグラスを割ってしまったら、やんちゃ時代を過ごした場所です。

庭のバラの茂みにボールが入ってしまうと、バラの棘に刺されながら、ボールを取りに行くのは、いつも私の役目でした。

今の時期はバラが咲いていませんが、5月、そして10月には、世界中から寄せられたバラが沢山咲きます。どうぞその頃にでもまた鳩山会館にお越しください、バラを楽しんでいただけたらと思います。

友愛の理念を大切に、これを広めようと尽力した祖父鳩山一郎が好きだったバラ「ピース」も庭の敷力所に植えられています。是非

本学の学生にとっても貴重な機会です。この交流会を楽しみにしていましたと挨拶。森田浩樹学院長



皆さんに鳩山一郎の思いを知っていただきたいと思えます。

日本にいらして日本語を学んでくださっている皆さんは、言葉を超えて平和を繋ぐ大事な懸け橋となる方々です。今後のご活躍に大いなる期待を寄せております。

今日は友愛の若手メンバー「友愛ユニオン」との交流を通して、次世代の皆さんが描く平和の姿を探っていただけたら幸いです。

言語を学ぶということ 森崎 桃子

今回の千代田国際語学院の学生の方々と交流は、言語や文化の違いを超えた相互理解について改めて考える貴重な機会となりました。

私がお話しさせて頂いたグループの方は、まだ日本語を学び始めたばかりの方も多く、中国語も交え、中国語で会話した内容は日本語勉強が長い方にまとめて翻訳していただきました。交流を深めました。

本事業担当/櫻上哲夫理事 活発な意見交換、友情を育む、皆さんに期待しますと挨拶



日本に来て感じたカルチャーショックをテーマに会話ししましたが、互いに考えや思いを自身の言語では完全に伝えられない中でも、お互いが相手を理解しようと会話を続けることで、共通点を見つけたり、新しい発見をしたり、相手の伝えたいことが理解できたときの喜びは大きかったです。

様々な違いを乗り越えて、お互いを理解するには、時にお互いのことが分からない状況を受け入れて、コミュニケーションを続けようとするのが求められます。これは、言語や文化の違いを超えた交流だけでなく、家族や友人との日常の会話にも共通していることかもしれません。

個人がおかれる状況は日々の生活や社会情勢の中で刻々と変化しますが、その中でも辛抱強くお互いを理解しようとする営みを今後も大切にしていきたいと思えます。

また、現在は様々な便利な翻訳ツールが増え、言語を習得しなくともお互いの考えや思いを伝える手段は

司会進行担当/後藤代智理事 よどみない司会進行は、定評がある。頼もしい若手代表理事だ



多様化し、言語を学び続けることの意味が希薄になっているように感じられます。その中でも、今回の交流を通じて自分の考えや思いを自分の言葉にして相手に伝える営みから生まれる楽しさや面白さを改めて感じ、この楽しさや面白さが、今後も様々な人が言語を学び続けるモチベーションになると思いました。

この先の文化を 考えること 藤田 脩椰

小論文コンテストの一環として、「日本に来て感じたカルチャーショック」というテーマで千代田教育グループの留学生たちとテーブルディスカッションを行った。

参加者は中国からの留学生が多かったが、私が参加したテーブルは中国やベトナム、ネパールといった複数の国からの留学生からなり、日本と出身国、だけでなく、留学生の出身国同士の違いについて話す場面も生まれた。

ディスカッションの中で印象に残ったのは、中国やベトナムでは昼寝の習慣があるという話題である。日本では、学校や職場といった公の場で昼寝をする習慣はないが、彼らの国では公の場でも昼食後に長めの休憩を取り昼寝をする文化があると聞き、とても興味深く感じた。日常生活の中の小さな習慣であっても、国によって当たり前が異なることを実感した。

このように各国の文化について紹介しあう中で、同じ話題についても受け止め方や考え方が異なった。こうした対話を通じて、文化とは単に差異を比較するだけでなく、持ち寄り、理解しあう過程の中で新たな形が生まれ得るものであると思った。国際交流の意義のひとつは、こうした交流を通じて文化の差異を認識するだけでなく、これを出発点として新たな価値観や文化をはぐくんできていく点にあると感じている。

人との「距離感」 土屋 京香

ディスカッションでは、カルチャーショックを起点に、日本での生活や日本人と友達になる方法などについて話しました。さまざまな意見や経験が交わされるなかで、日本人と友達にな



友愛ユニオンメンバー／土屋京香さんが参加したテーブル



友愛ユニオンメンバー／巳上小楽咲さんのテーブル



友愛ユニオンメンバー／森崎桃子さんの担当したテーブル



友愛ユニオンメンバーに替わり、西川理事も加わって意見交換



友愛ユニオンメンバー／藤田脩椰さんのテーブルは国際色豊か



会場は和やかさの中にも熱気が溢れ、若いエネルギーが楽しそうに討論を交わっていた



自らの言葉で、想いを、意見を伝える留学生のみなさん 個性豊かな話題が



この経験は、単に異文化の違いを知る機会というだけでなく、違いをどのように理解し、受け止めるべきなのかを考える契機となった。

「日本に来て感じたカルチャーショック」というテーマをもとに、私たちのテーブルでは、人生を「学生時代」「社会人時代」「引退後」という三つの時間軸に分け、さらにそれぞれを「仕事」と「私生活」の側面から考えるという枠組みを用いた。

この方法によって、日常生活の違いを挙げるだけではなく、それぞれの社会の価値観や人間関係のあり方を話が進めていくと、私は七十歳まで働くことを「働かされる」という問題として捉えていたのに対し、その留学生は「働ける」機会として前向きに捉えていることが分かった。

このやり取りから、客観的には同じ状況に直面していたとしても、その受け止め方は異なる文化的背景を持つ人同士の間で異なることに気づかされた。

人はそれぞれ固有の主観的な世界を持ちながら生きている存在であり、自分の理解だけで相手を捉えようとすれば、互いの認識はすれ違ってしまふ。だからこそ、互いの主観的な理解を言葉にして交わし、理解可能な形へと組み替えていく「対話」というプロセスが不可欠なのだと感じた。

そして、国家間関係の緊張が高まる場面も少なくない現代に生きる一員として、その状況を個人同士の理解を妨げる障壁とするのではなく、対話を通じてつながる草の根の交流の担い手であり続けたいとの覚悟を改めて胸に刻んだ。



後藤理事の進行で、友愛ユニオンメンバーがスピーチに立った。全員参加。薫先生の部屋で偉業に感心して見入る栗田会長



暖かい日差しの中、思い思いに庭を見学。バラの咲く頃には是非もう一度訪れたいと口を揃えていた

旧家屋にも興味を示し、是非見たいと庭の奥へ。古い日本家屋はなかなか見る機会が無いからと

る難しさとして「距離感」があると、グループの留学生が満場一致で同意しました。プロクセミクス(近接空間学)を提唱したエドワード・T・ホールは、文化によって人がとる距離は異なると述べています。

例えば、ある人が同僚に対してとる距離は、別の人間にとっては家族や恋人に対してとる距離である場合があり、そのような齟齬が摩擦を生んでしまうというのです。相手との距離は非言語コミュニケーションにも含まれ、発せられた言葉と同様に受け手に伝わるた

め、実は「距離感」というものは非常に重要なのではないのでしょうか。

私のいとこの祖母は中国人なのですが、初めてお会いした際、親戚ということもあり、気づけば私はその方と腕を組んで歩いていました。日本人の場合、親戚であっても初対面かつ大人同士のであれば、なかなかスキップはありません。ですが、中国では家族や友達との親しさが、実際に目に見える形で表現されるのです。

表面的な違いが理解されにくかったり、違いが浮き彫りになるからこそ、共通性が見えにくかったりすると思います。留学生からは、「距離感」をはじめとするさまざまな違いを認識し、その難しさを感じながらも、日本人と友達になりたという思いから、相手を尊重したいという意見が出ました。

今日の交流会を通して、目に見えず言葉では説明しづらい違いは、確実に異なる文化の間に立ちはだかるのだと実感しました。同時に

に、相手をわかろうとする気持ちや相手を尊重する行動、そして対話を重ねる努力が、「違いを完全に理解すること」ではなく、「多様な違いを乗り越えること」につながるのだと発見しました。

「働かされる」と「働ける」

巳上 小楽咲

「日本に来て感じたカルチャーショック」というテーマをもとに、私たちのテーブルでは、人生を「学生時代」「社会人時代」「引退後」という三つの時間軸に分け、さらにそれぞれを「仕事」と「私生活」の側面から考えるという枠組みを用いた。

この方法によって、日常生活の違いを挙げるだけではなく、それぞれの社会の価値観や人間関係のあり方を話が進めていくと、私は七十歳まで働くことを「働かされる」という問題として捉えていたのに対し、その留学生は「働ける」機会として前向きに捉えていることが分かった。

が、人々の生き方などのように影響しているのかを多角的に考えることができた。

特に印象に残っているのは、ある留学生が日本の定年年齢の引き上げが進んでいることに言及した際のことである。そこで私は、その状況について「どのような改善すべきだと思いますか」と尋ねたところ、別の留学生が「そういうことではないと思います」と言ってくれた。



友愛ユニオンからの参加者。左から森崎桃子さん、巳上小楽咲さん、藤田脩椰さん、土屋京香さん



2026年度内閣府青年国際交流事業 舞台は世界! 飛翔! 跳躍! チャンスを掴め!

内閣府が実施する青年国際交流事業の内容が発表された。本財団でもこの事業の推進に協力し、毎年機関紙「友愛」紙上で、募集案内を掲載している。それぞれ場所も内容も異なる4つの事業が企画されている。下記のQRコードからアクセスすると、各事業の詳細、日程などが詳しく記されている。この機会に是非、貴重な体験を目指して新たな世界に飛び出してみませんか。友愛の理念を掲げて世界に挑戦です。

内閣府青年国際交流事業 日本代表青年募集

【募集期間】
2026年2/16(月) → 4/17(金)

申込・詳細はHPから
内閣府 青年国際交流



詳しくはこちらにアクセスしてご確認ください



世界に飛び出して活動! 新しい体験を!

OEJAB派遣員元気に出発

総勢8名のパワーと迫力

3月5日(木)2025年度のOEJAB派遣員が羽田空港からウイーンに向けて出発した。今回は例年より2名多い8名の構成となった。帰国する3月16日までの約10日間、OEJABの難民施設を見学したり、直接関係者との交流を行ったり



空港の会議室で、最後のレクチャールを受ける派遣員8名。担当の西川理事は「ともかく安全に」と



全員揃ってそれぞれに「友愛」を表現するポーズを決めて。写真後列左から 唐祺東さん(团长)、佐藤廉太郎さん、森澤未由さん、土屋京香さん、前列左から渡邊咲耶さん、田口郁子さん、伊藤里彩さん、豊田万葉さん

と、学習メニューもたっぷり。また、国連機関訪問、日本大使館訪問など貴重な体験も準備されている。研修を続けてきた8人の仲間、チームワークも完璧。12日間の研修に期待と希望で胸がふくらむ。担当の西川理事は「楽しんでください。そして何より安全に」と笑顔でエールを贈った。

2025年度年会費納入のお願い
 * 同紙で年会費の振り込み用紙をお送りしております。これは2025年度分のお振込用紙です。お振込みの際は、紙面に記載の口座番号と金額を正確に入力してください。振込手数料はご負担ください。
 * 4月1日以降のご入金には2026年度年会費としてお取り扱いさせていただきます。
 * ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記
 ◆あの暑かった夏の感覚が幻だったと思えるような冬の寒さでした。季節外れの雪もありました。でも確実に春は近づいています。日に伸びる日脚、空の青色の濃さ、河津桜を始めとする早咲きの桜の便り、ランドセル売り場の登場、色々あります。それぞれの地方特有の行事などもありますね。皆さんも独自の目線で春の訪れを探してみてください。楽しいですよ。(も)